

大動脈瘤に対する血管内治療 (EVAR)

腹部、胸部の大動脈瘤に対し、腹部や胸部を切開せず足の付け根の動脈から血管内治療を行います。

8月20日に腹部大動脈瘤症例2例に対し京都大学心臓血管外科と提携しEVARを実施しました。

9月21日、10月4日に胸部大動脈瘤に対し同じく京都大学と提携し施行する予定です。

開腹・開胸手術の困難な症例、高齢で体力のない症例、血管内治療による合併症を起こす可能性が少ない症例の中から適応を決定しています。

腹部大動脈瘤に対するEVARの様子。患者は局所麻酔（軽度鎮静）下に両側ソケイ部切開でカテーテル操作が行なわれます。



本症例はカテーテル室で行っていますが、今後は手術室で可動式透視装置を使って行う予定です。



腹部大動脈瘤に対する血管内治療(EVAR)症例 1

83才 男性

術前2D

術後2D



100 mm

腹部大動脈瘤に対する血管内治療(EVAR)症例 1

83才 男性

術前3D

術後3D



腹部大動脈瘤に対する血管内治療(EVAR)症例 2

73才 男性

術前2D

術後2D

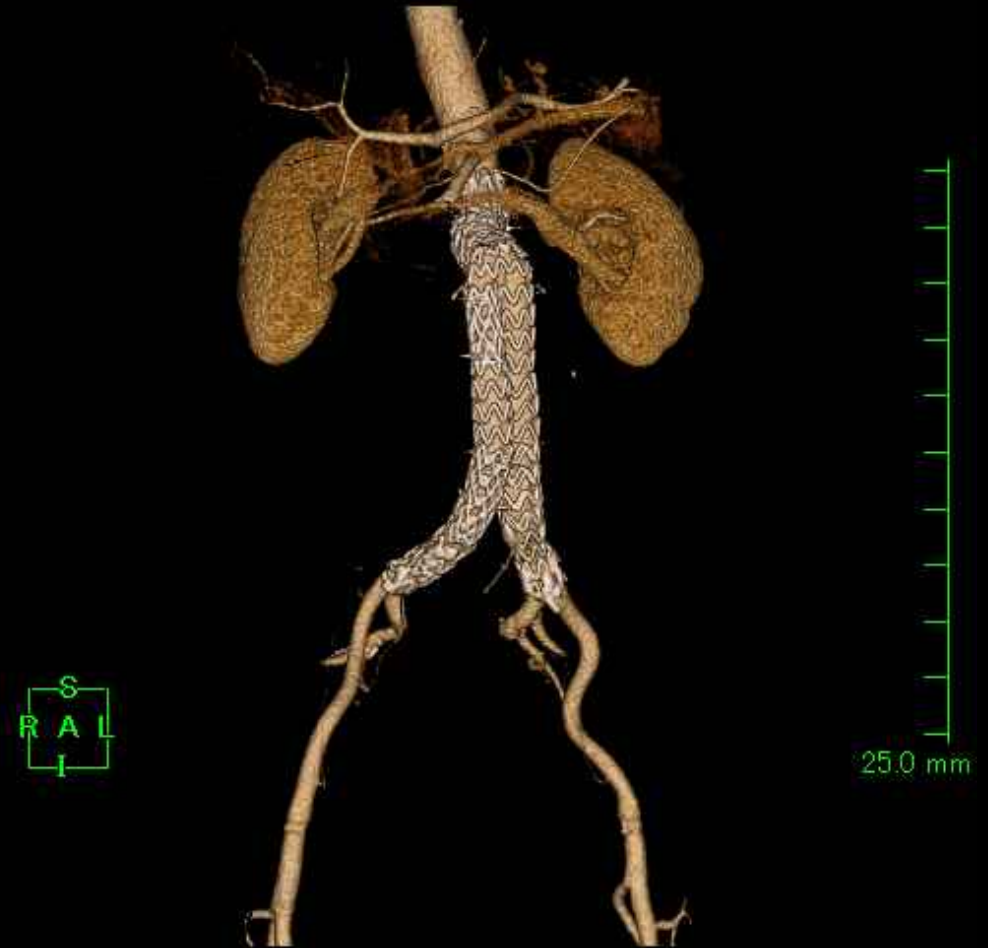
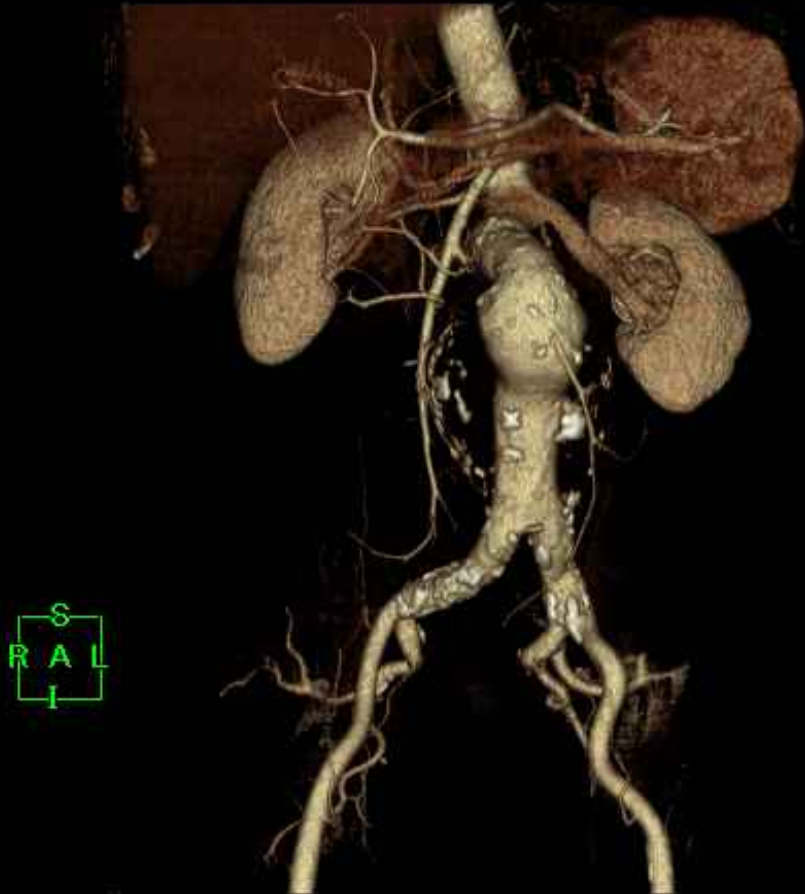


腹部大動脈瘤に対する血管内治療(EVAR)症例 2

73才 男性

術前3D

術後3D



大動脈瘤に対する血管内治療 (EVAR)

大動脈瘤の診断を受け、手術が必要と診断された場合、通常の開腹・開胸手術の方が安全な場合もありますが、足の付け根の大腿動脈からカテーテルを使って、人工血管(ステント)を血管の中から留置する血管内治療が可能な場合もあります。

血管内治療の場合、手術の負担は軽く、入院期間も短期間ですむため、大動脈瘤と診断された場合は心臓血管外科の外来を受診し、気軽にご相談下さい。